

# 子どもと教育を考えるつどい

第15回

講師

鈴木大裕さん

(教育研究者 高知県土佐町議会議員)

「どうなっているのか」

「今、公教育は

とき 2020年

2月16日(日)

13:30~16:00

ところ 長崎市民会館

1階大会議室

(長崎市魚の町 5-1

市民会館電停下車すぐ)

無料  
入場

13:00~13:30 受付  
13:30~13:40 開会挨拶  
13:40~15:10 講演  
15:10~15:20 休憩  
15:20~16:00 質疑・応答  
意見交流 まとめ

「Society5.0」と言われる社会の到来を口実に、急速な大企業の公教育への参入と子育て支援の市場化がすすんでいます。公教育が担ってきた教育の平等性や公共性を損ない、教職員のあり方や専門性まで変質させる危険性があります。

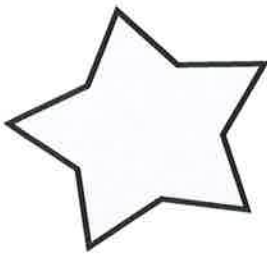
「夢を膨らませて教員になりました。子ども一人ひとりを考える時間が全くとれません。このままでは質の良い教育を提供することはおろか、教員が死にます。助けてください」——(「せんせいふやそうネット署名」)

「生徒に勉強ができたと自信を持たせているか」の OECD 国際教員指導環境調査の問いで、各国平均が 85.8%、日本は 17.5%など、教員が悩み、不安を抱えていることが示されました。

「競走からおりるってどうやったらおりられるの？がんばらないとおちてしまう」…との子どもたちのつぶやき。

全国学力テスト調査の「結果が全国上位だと自慢している学校があり、『ドーピング』と呼ばれている」との告発は、「本当の学力とは何か」を問います。

子どもたちと学校のリアルをどうとえるか、目の前の子どもたちの姿から出発し、語り合い学び合いましょう☆



## 講師プロフィール



### 鈴木 大裕 Daiyu Suzuki (すずき だいゆう)

教育研究者・土佐町議会議員。1973年神奈川県生まれ。

16歳で米ニューハンプシャー州の全寮制高校に留学。そこでの教育に衝撃を受け、日本の教育改革を志す。97年コールゲート大学教育学部卒(成績優秀者)。99年スタンフォード大学教育大学院修了(教育学修士)。日本に帰国し、通信教育にて教員免許を取得後、2002～2008年千葉市の公立中学校に英語教諭として勤務。その後、フルブライト奨学生としてコロンビア大学教育大学院博士課程に入学。米国を代表する教育哲学者、故マキシム・グリーン女史の助手や講師を務める一方で、東日本大震災の復興支援団体や教育アクティビストネットワークを立ち上げる。

2016年からは人口4000人弱の高知県土佐郡土佐町に家族で移住。

2019年4月、土佐町議会議員に初出馬し、トップ当選。教育を通じた町おこしに取り組みつつ、月刊『教育』、『クレスコ』での連載や朝日『論座』を通して広く発信している。

### 「変われ！学校」連続インタビュー(朝日Globeインタビュー)から

異色の経歴を持つ教育研究者の鈴木大裕さん(45)が一貫して考え続けてきたのは「教育と幸せ」だという。——(聞き手・市川美亜子)

——なぜ16歳で米国留学を決めたのですか

ある時ふと、「このまま高3になったら受験をして、そこそこの大学に入って、サラリーマンになるんだろうな…」と自分の将来が見えてしまったんです。米国に行って、生まれて初めて自分が「学んでいる」と感じました。用意された答えではなく、生徒一人ひとりの真実と向き合う素晴らしい先生に出会い、毎晩のように先生から返された作文を書き直しながら「今まで自分が受けてきた日本の教育はなんだっただろう」と考えるようになり、日本の教育について疑問を持つようになりました。だから米国で大学院に進学し教育学を学び、日本の教育現場に立とうと考えて帰国しました。

——学校が格差を広げている現実…千葉での教員生活はどうか。アメリカでの経験を生かしましたか

日本では米国で取得した教育学の単位は認められず、通信教育で2年半かけてやっと教員免許を取りました。6年半の間、千葉県の公立中学で英語教師として勤めましたが、教師としての仕事に魅力にはまる一方で、「どうして日本では教育改革が進まないんだろう」という思いも高まりました。当時はちょうどアメリカでは公設民営のチャータースクールや学校選択制など、大胆な改革が進んでいました。閉塞感の漂った日本の教育に身を置いていると、アメリカの市場選択的な教育に希望や憧れを抱きました。ですが、コロンビア大学教育大学院の博士課程で実際にアメリカの教育改革について勉強し始めると「負」の部分が見えてきました。市場原理だけに従った大規模な学校閉鎖とそれに伴う教員の斉一解雇とたらい回しにされる子どもたち、小中学校の学力テストによる序列化、塾のような公設民営学校の登場…。アメリカの学校が「格差拡大の社会的装置」となっているのを前に、公教育とは、民主主義とは何なのかと考えました。

——イェナプランなど多様な教育を公立校に取り入れる動きについてどう思いますか。

多様な教育を柔軟に導入していく取り組み自体はよいことだと思いますが、今日の格差社会において部分的に導入しているうちは、結局は富裕層のためのオルタナティブになってしまう可能性が高いのではないのでしょうか。教育は社会の写し鏡なので、多様な学校をつくったところで、社会における「成功」の物差しが一つであれば、結局のところ格付けされ、勝ち組・負け組をつくるためのテクノロジーになってしまう懸念があります。結局のところ、一人ひとりが「私の子ども」という観点から「私たちの子どもたち」という観点到り切り替えないと、公教育も、社会も、よくなるということに気づかないといけないと思います。

長崎の子どもと教育を考えるつどい実行委員会

事務局:長崎県高等学校教職員組合

〒850-0013 長崎市中川 2-2-5

TEL 095-827-5882

URL

<http://nagasaki-kokyoso.org>



あなたの高教組への加入を  
心からお待ちしています